

ガス欠ならぬ、電欠のことだった。

近くの玉の浦カントリーパークにある急速充電器でチャージする。19分で終わったが、急速だと8割までしか充電されない。i-MiEVのカタログ航続距離は160km。でも精神衛生上、不安なく走れるのは半分の80kmかなと心配性のぼくはみている。

バッテリー腹八分目で再び走り出す。左は海、右手は山。国道からの眺めは相変わらず西伊豆っぽい。ただ、沿道には家も店も見当たらない。およそ「ひとけ」がない。だけれもない西伊豆だ。久しぶりに対向車がくる。クラウンのバトカーだった。すれ違いざま、ガン見。されているのがわかった。

立派なトンネルを抜けて坂を下ると、ひときわきれいな海が見えた。大瀬崎と並ぶ観光スポット、高浜海岸である。こじんまりした白砂のビーチで、「日本の渚100選」にも選ばれている。あいにくの曇り空でも水は美しいヒスイ色だ。さすがにこの色は西伊豆じゃお目にかかれない。それよりなにより、こんなきれいなところにやっぱりだれもないのが驚きである。「観光地イコール人ごみ」の図式に慣れていると、絶景が放置「ブレイ」に遭っている感じがした。

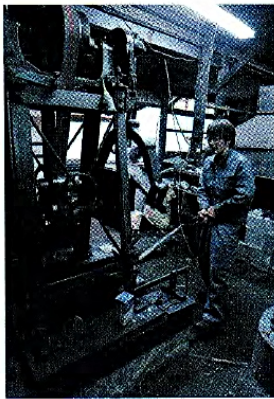
### 福江の星は鍛冶職人

福江島R384ドライブも後半、岐宿という地区に入ったとき、道路沿いのトタン小屋に「鍛冶屋」の文字が見えた。窓ぎわでグラインダーを使う人影も見えた。「人がいた!」すぐにUターンする。

「商い中」の看板が出た作業場をのぞくと、快く迎えてくれたのは、宮崎春生さん(25歳)という若者だった。高校在学中から鍛冶職人を志し、卒業後、博多の鍛冶屋に弟子入り。5年間修業して帰島。2009年の7月にここで独立開業した。そんな話を聞いているあいだにも、農家の人が鋸の修理を頼みにくる。水産会社から包丁研ぎの仕事がまともに入ったりもする。「椿包丁」というオリジナルの



●大瀬崎灯台もおおせさきどうたいり。「日本の灯台50選」「日本の夕陽100選」などのタイトルホルダー。最近の映画「悪人」のロケ地として売り出し中



●宮崎鍛冶屋の宮崎春生さん。左下は宮崎さんの手による椿(つばき)包丁

●福江島有数の観光スポット、高浜ビーチ。季節外れのだれもない砂浜で、夏のにぎわいを想像してみる



包丁もつくっている。豪快なその刃体を見た  
ら欲しくなったが、飛行機で帰ることに気が  
ついて思いとどまる。高校卒業生の9割以上が  
島を出て行ってしまいうなか、イケメンの若い  
鍛冶職人は「五島の星」のような若者だった。  
終盤は内陸部に入る国道を完走して、夕方  
5時過ぎ、福江に着く。県道とR384で出  
来た島の環状ルートを1周したことになる。  
寄り道込みで110km走った。

港に一番近いビジネスホテルにチェックイ  
ンして、レンタカー屋の御主人に聞いた居酒屋  
で夕食をとる。太刀魚やアジの塩焼き、き  
びなごの刺身。生まれて初めてハコフグを食  
べた。こちでは「かっつぽ」と呼び、お  
なかに味噌を詰めて焼いてある。ハコフグに  
は毒がないと聞いてから、淡白な自身を崩し、  
ゆずこしよりの入った味噌と和えて食べる。  
初めての味だ。うまい。肉食男女には霜降り  
の五島牛もある。昼に食べた五島うどんも、  
独特のコシと滑らかな食感でおいしかった。  
五島の食は豊かである。

### 中通島に渡り最北端を目指す

2日目は朝一番のジェットフォイル(水中  
翼船)で中通島に渡る。五島列島の上半分  
新上五島町で一番大きな島である。福江島の  
富江を起点にするR384の終点は、じつは  
長崎県の佐世保だ。複数の陸地にまたがる道  
を航路でつなぐ、いわゆる海上国道なのであ  
る。中通島のR384は、港のある奈良尾を  
起点にして有川までの28・7km。だが、ほく  
らは有川の手前から島を北上して津和崎鼻を  
目指すことにした。五島は隠れキリシタンの  
島として名高い。中通島にも数多くのカトリ  
ック教会がある。島のカタチそのものも十字  
架に似ていて、上半分は地図上だと線の様  
に細い。「突端好き」としては、ぜひともそ  
の先っぽまで行ってみたいかった。

アシはここでもi-MiEVのレンタカー  
である。朝8時過ぎ、やはり「電欠せんと  
う」という言葉に送り出されて奈良尾を出発

する。今日中に東京へ帰るために、夕方4時  
にはここへ戻ってこなくてはならなかった。  
まずは先を急いで20km進み、新上五島町役場  
の急速充電器でチャージする。島北部の細  
い部分には充電器がないのである。さすが

にまだこれしか走っていないので、9分19秒  
で80%チャージは終わる。ここから津和崎鼻  
までは30km。これまでの走行パターンから車  
載コンピューターが割り出した航続距離は77  
km。余裕をもって往復できそうだ。



## ニコニコドライブ

～アンチ高速道路の旅～

●上五島・中通島の大瀬良峠から、島の両側を見渡す。まさにプライスレスな絶景

中通島のR384も大半が海沿いルートだ  
が、海の景色は福江島に輪をかけてきれいで  
ある。美しい入り江の海岸線に沿うような口  
ケーションが多い。海がより近いのだ。島  
の面積も人口も福江島の約半分だが、中通島  
のほうが活気を感じた。福江島では見かけな  
かったガイシャも見た。初代メルセデスCク  
ラスと先代のアルファ・スパイダー。もちろ  
ん圧倒的多数は軽自動車だが、福江島の軽  
よりカラフルなボディ色が目立つ。  
「五島ではウィッツが人気ないらしいです」。  
助手席で編集部S君が唐突に言った。こちら  
でウィッツというと「ブス」のことだからだ  
そう。あとで地元の人に確認したところ、  
確かに「可愛くない」ことを五島の方言で「び  
つつんない」と言うが、それでウィッツを想  
起する人はいないはずだという。

### 寅さんの教会に行ってみる

島の東側、有川湾に出たところでR384  
に別れを告げ、北上する県道に入る。

島が細くなると、坂がきつくなった。上っ  
ては下りるアップダウンが繰り返される。高  
みから見ると海はすばらしいが、EVには  
ツライ。力行運転は御法度。エネルギーメ  
ーターを見ながら、出しても40km/h台、上  
り坂ではときに20km/hをきるようなケチケ  
チ走行に努める。はるばる東京から五島へ来  
て、1泊2日で帰る観光客はいまい。ワール  
ドカップの弾丸ツアーみたいな高速旅行なの  
に、路上ではひたすらカメラさん走行をしてい  
るのがわれないがおかしかった。

県道に入って十数km、新魚目地区のあた  
りから島の幅はますます狭まる。地図で  
見ると、数百mありやなしやにくびれたとこ  
ろもある。そのひとつ、大瀬良峠では道路か  
ら少し高台に歩いて上ると、細い陸地の両側  
に光る海が見えた。両手に花ならぬ、両手に  
海である。この風景を見たかったのだ。

島の北部には「似首」とか「島首」とか、  
首のつく地名がある。どういいう意味だろうと